

一人じゃないと思うことで、人は想像以上に心強く、前向きになれる。それを実感したのは、子どもを生んでしばらくしてからのことだった。

私は、結婚して初めて高知県で暮らし始めた。夫は毎日多忙で帰りが遅かった。妊娠すると体調が良くない日が続き、気晴らしに一人で出かけることもできなかった。結婚前は仕事などで忙しい毎日だったが、急に家の中だけで過ごす状態になると、同僚や友人、家族が恋しくなった。これから初めての育児が待っている。身内も遠い。ここで困った時には誰を頼ればいいのかと不安な気持ちになつていった。

そんな気持ちが続えぬまま、子どもが生まれた。腕に抱いた瞬間、涙が溢れた。安堵の気持ち、幸福感、そして自分がこの子を、頼れる身内も近くにいない高知で育てられるのかという不安な気持ちが入り混じった、何とも言えない複雑な涙だった。

生まれた子どもはとても敏感だった。夜中は1時間おきに泣いた。昼間も抱いていないと寝なかった。やつと布団で寝てくれたと思い、急いで家事に取りかかっても、皿を洗う音でまた起きて泣く、その繰り返しだった。ベビーカーも嫌がり、どこへ行くにも腕に抱いていた。まとまった買

一人じゃないと思うこと

い物には行けなかった。1時間でいい。誰かに預け、この子と離れて横になつて休みたい。そんな状況だった。

この疲弊した状況から抜け出すきっかけとなったのは、ベビーカーへの参加だった。参加して分かったことは、私と同じような状況のお母さんもいたことだった。その人に話を聞いてもらうだけで、心がスッと楽になった。共感してくれる人がいる。一人じゃないと思うだけで肩の力が抜け、前向きになった。子どもに対しても、「泣いてもいいよ」と思えるようになってからは、素直にかけたいと感じることができた。

人は皆それぞれ悩みや苦しみがあつた。アドバイスよりも話を聞き、共感してくれるだけで、想像以上に心強く、前向きになれることを実感できた経験であつた。これからも人との関わりの中で、人の気持ちに寄り添える自分でありたいと思う。

*このシリーズはあなたとあなたの周りの人々との間に温かなつながりが生まれることを願ひ、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569